

1 専門教育科目の構成

1. 音楽科の教育目的

音楽科では、それぞれの専攻実技の力を伸ばしながら、関連科目の学習の中で、その演奏実践と切り離すことのできない理論的理解、歴史的理解、文化的理解を深める。演奏実践力は、ソリストとしての演奏力だけでなく、アンサンブル力も含めて伸ばし、より応用範囲の広い音楽力として開発する。

2. 音楽科の特徴

日本でも有数の伝統を誇る音楽の高等教育の実績に立ち、理論的理解、学問的理解の基盤を踏まえた高度な専門教育を提供する。音楽科は宮城学院の前身である宮城女学校が開設された当初から設置されており、優秀な音楽人を卒業生として送り出してきた。

いずれのコースも、小規模学科ならではのきめ細かな教育を特徴としており、温かい雰囲気の中で日々の教育活動が営まれている。また、合奏、合唱など、学年の枠を超えての活動も多く、多様な人間関係の中で、さまざまな方向から音楽力および一個人の人間としての力を伸ばしていくことができるのも、音楽科の特徴といえる。

3. 教育課程の特色

音楽科専門教育科目は、大きく分けて「コース別科目」、「共通科目」および資格取得に関わる科目から構成される。

コース別科目：

「専攻実技」を中心とした専攻の演奏表現能力を高めるための科目。

「専攻実技」は個人レッスン形態で開講され、個々のレベルや個性に合わせた指導がなされる。演奏実践の応用力を開発するためのアンサンブル科目が設けられているのも特色である。

共通科目：

音楽史系科目、音楽理論系科目、音楽学系科目など、音楽の論理的理解に関わる諸科目と、ソルフェージュや合唱、副科実技など、音楽経験の幅を広げることから専攻の学習を支える諸科目が含まれる。

資格に関する科目：

教員免許、司書教諭資格の取得に必要な科目が置かれる。

2 履修方法

◆卒業要件単位

卒業するためには、以下の要件を満たし、合計 124 単位以上履修しなければならない。

1) 一般教育科目

一般教育科目は 42 単位以上履修すること。その科目内訳は以下のとおり。

●必修科目 (計 42 単位)

- 1 年次：「キリスト教学」、「基礎演習」、「日本語演習」、「女性と人権」、「自然科学入門」、「英語コミュ

ニケーション I・II」

第二外国語はドイツ語、フランス語のいずれかを選択 (「ドイツ語コミュニケーション I・II」、「ドイツ語リテラシー I・II」または「フランス語コミュニケーション I・II」、「フランス語リテラシー I・II」)

「リベラルアーツ基礎 A」、「リベラルアーツ基礎 B」、「情報処理」、「体育実技」

2 年次：「生活と福祉」「英語リテラシー I・II」、「リベラルアーツ基礎 C」、「リベラルアーツ基礎 D」「リベラルアーツ総合 A」

3 年次：「キリスト教と現代社会」「リベラルアーツ総合 B」、「リベラルアーツスタディーズ A」、「ライフワーク論」

4 年次：「リベラルアーツスタディーズ B」

●選択科目

2 年次：「体育講義」

3 年次：「日本国憲法」

4 年次：「キャリア形成論」

1～4 年次：「シーズンスポーツ」

2～4 年次：「スキルアップ英語」、「スキルアップドイツ語」、「スキルアップフランス語」、「スポーツ」

2～3 年次：「実践フランス語 I」

3～4 年次：「実践フランス語 II」

2) 専門教育科目

専門教育科目は、以下の要件とキャリア形成科目キャリアデザイン (2 単位) の要件を満たし合計 74 単位以上履修すること。

①実技科目の履修について

実技科目には、「専攻実技」、「副科実技」、アンサンブル系科目がある。「専攻実技」、「声楽実技」、「作曲実技」はそれぞれのコースに応じて 4 年間必修だが、その他に専攻によって次の科目が『必修』となる。

器楽コース

ピアノ専攻 副科声楽 I・II、副科オルガン I・II、副科合唱 IA～IIB

オルガン専攻 副科ピアノ IA～IIB、副科声楽 I・II、副科ハーブシコード I・II、副科合唱 IA～IIB

ヴァイオリン・ヴィオラ専攻 副科ピアノ IA～IIB、副科管弦打楽器 I・II (ヴァイオリン専攻者はヴィオラ、ヴィオラ専攻者はヴァイオリン)、副科声楽 I・II、オーケストラ IA～IIB、副科合唱 IA～IIB

チェロ専攻 副科ピアノ IA～IIB、副科声楽 I・II、副科合唱 IA～IIB
コントラバス専攻 I・II、オーケストラ IA～IIB、副科合唱 IA～IIB

フルート専攻	副科ピアノIA～II B、副科声楽
オーボエ専攻	I・II、
クラリネット専攻	オーケストラIA～IV B
サクソフォーン専攻	副科合唱IA～II B
ファゴット専攻	
ホルン専攻	
トランペット専攻	
トロンボーン専攻	
ユーフォニアム専攻	
チューバ専攻	
打楽器専攻	
声楽コース	副科ピアノIA～II B、オペラ演習 I・II、専攻合唱IA～IV B
作曲コース	副科ピアノIA～II B、副科声楽 I・II、作曲理論IA～II B、オーケストレーション I・II、スコアリーディング、副科合唱IA～II B

さらに、各自の関心や必要に応じて、上の必修科目以外に、副科管弦打楽器およびアンサンブル系科目（室内楽 A～H、アンサンブル演習 I・II）などから、原則として 1 学年につき 2 科目まで選択履修することができる。ただし、初心者は、副科管弦打楽器を 1 年履修した後に、アンサンブル科目受講可能とする。

これら演奏実技科目の履修に際しては、次の諸点を注意すること。

- (ア) 「副科管弦打楽器」の履修に際しては、複数の管楽器、あるいは複数の弦楽器を同時履修することはできない。また、これらの科目を 2 年以上続けて履修する場合には、前年度履修した楽器を選択すること。
- (イ) 「オーケストラ A・B・C・D」を履修する場合には、オーケストラに参加する楽器を前年度までに副科実技で履修しておくこと。副科管弦打楽器以外の管弦楽器の学習経験者で、楽器を所有している人、もしくはアンサンブルができる程度に演奏できる人が前提となる。
- (ウ) 「副科管弦打楽器」で使用する楽器については各自用意することが望ましい。（一部の楽器については学科所有の楽器を貸与する。）
- (エ) 授業内容や履修希望者の人数によっては、希望する科目を受講できない場合もある。
- (オ) 「室内楽」は器楽コース（オルガン専攻を除く）、「アンサンブル演習」は声楽コースのみが対象となる。
- (カ) 演奏実技に関わる科目の履修については、前年度 1 月に予備登録を行う。

②器楽コース、声楽コースに関わる科目について

- (ア) 「演奏家養成特別実技」について
器楽コース、声楽コースには、「専攻実技」「声楽実技」のほかに「演奏家養成特別実技」が開設されている。「専攻実技」「声楽実技」のレッスンとは別枠で、より高度な演奏能力を身につけるためのレッスンが行われ、専攻実技担当教員とは別の教員で履修することもできる。その

ため人数に制限があり、一年毎にその資格審査が行われる。

(イ) 履修資格のある科目について

上に述べた「演奏家養成特別実技」の他、ピアノ専攻者の「室内楽 B～H」についても、資格制限がある。資格は先行する学期の専攻実技試験の成績による。

③その他の科目

(ア) 「共通科目」について

「共通科目」には、「西洋音楽史概論」や「ソルフェージュ」「指揮法」などの全専攻共通の必修科目の他、「日本音楽史概論」、「和楽器演習」などの教職必修科目、さらに音楽学習の幅を広げる諸科目が設定されている。専攻によって必修とされている科目、隔年開講となる科目などもあるので注意すること。

(イ) 「ソルフェージュ」「和声法」について

これらの科目は、入学時に実施される音楽基礎能力テストによりクラス分けを行う。

3) 自由選択科目

自由選択科目は 8 単位以上履修すること。

この 8 単位は、『専門教育科目の選択科目』、『一般教育科目の選択科目』、『他学科の開放科目』、『本学と協定を締結している他大学の単位互換科目』から履修すること。

●キャップ制について

キャップ制とは、授業の予習や復習など教室外において学習する時間を考慮し、単位の過剰登録を防ぐため、学期間・年間に履修登録できる単位の上限を設ける制度である。

1 年度あたり登録できる単位数は、前期、後期それぞれ 28 単位、通年で 48 単位を超えてはならない。

●その他

(ア) 「再度履修」が認められる科目の単位について

教育課程表「再度履修」の欄に、「可」と記入されている科目は、ある学年で単位を修得した以降も重ねて履修登録することができる。卒業要件単位を満たすには、一般教育科目 42 単位以上と専門教育科目 74 単位以上のほか 8 単位以上修得しなくてはならないが、「再度履修」により修得した単位もこの 8 単位に含めることができる（「卒業要件単位」についての説明も参照のこと）。

ただし、科目によっては、特定の専攻のみに「再度履修」が認められるものもあるので、教育課程表を注意深く読むこと。

(イ) 段階性のある科目

科目毎にローマ数字の付けられた科目は、段階的に履修しなければならない。したがって、上位段階の科目は下位段階の科目の単位を修得した後でなければ履修できない。

- ・専攻実技 I～IV
- ・声楽実技 I～IV

- ・作曲実技Ⅰ～Ⅳ
- ・副科実技Ⅰ～Ⅲ
- ・オペラ演習Ⅰ・Ⅱ
- ・和声法Ⅰ～Ⅳ
- ・作曲理論Ⅰ・Ⅱ
- ・オーケストラセッションⅠ・Ⅱ
- ・ソルフェージュⅠ～Ⅳ
- ・作曲・編曲法Ⅰ・Ⅱ
- ・指揮法Ⅰ・Ⅱ

(ウ) 開講学年と履修

それぞれの科目は、原則として教育課程表の配当学年次に履修するものとする。時間割は、教育課程表の配当学年に基づいて作成されるので、自己都合によって履修を先送りにした場合、次の年度で履修できなくなる可能性がある。

(エ) 予備登録

専攻実技、演奏家養成特別実技については、担当者の配当、クラス編成準備のために、年度末に翌年度履修についての予備登録を行う。指導担当教員は、予備登録の際に学生の希望で選ぶことができ、年度ごとに変更することもできる（ただし、人数によっては希望に沿えないこともある）。

予備登録については、後日詳しい要項を配布する。

(オ) 「認定科目」について

キャリア形成科目にある「アウトリーチ演習」「キャリアアップ演習」は「認定科目」である。「アウトリーチ演習」は、他の科目のように一定期間に履修登録する必要はなく、定められた要件を満たしたと判断される場合に学生が申請をし、その内容が要件を満たしていると科がみとめた場合に、予め定めたポイントが付与され、一定のポイントをもって単位が認定されることになる。また、「キャリアアップ演習」は、同じく他の科目のように一定期間に履修登録する必要はなく、定められた要件を満たしたと判断される場合に学生が申請をし、その内容が要件を満たしていると科がみとめた場合に単位が認定される。

1) 「アウトリーチ演習」

①目的

多様な場での演奏経験を重ねることは、演奏実技の学習に大きなプラスをもたらすものである。音楽科学生として経験するさまざまな演奏実践をポイント化して単位に結びつけることにより、演奏機会を自らの学習プロセスの中に意識的に位置づけ有効活用する。

②認定の対象

ア、学科が奏者を選抜する演奏（学外・学内は問わない）：卒業演奏会、音楽科コンサート、ソロ・アンサンブル発表会、新入生歓迎コンサート、オープンキャンパス、科主催の公開レッスン、学外からの依頼演奏

イ、上記における伴奏

ウ、音楽教室主催演奏会における演奏

エ、その他音楽科が認めるもの

③ポイントの算出と単位化

上記のアからエについて以下の基準でポイントを付与し、10ポイントで1単位を認定する。再度履修は何度でも認める。取得単位は2単位までを「自由選択科目」として卒業要件単位に含めることができる。

ア：演奏時間によって2ポイントから6ポイントを付与する。

10分未満 2ポイント

10分から20分 4ポイント

それ以上 6ポイント

ただし卒業演奏会での演奏は10ポイント

イ：すべて2ポイント

ウ：1回の出演につき2ポイント

エ：アからウを踏まえ、内容に応じて科会議において判定する。

④ポイント認定

ポイントは、学生が所定の様式により科へ申請し、科会議の議を経て認定される。

申請は、各セメスター終了前に一定期間を設けて音楽科副手室で受け付ける。

2) 「キャリアアップ演習」

①目的

1) 各種コンクールへの参加を奨励し、将来演奏家として活躍できる人材の育成を目指し、これを支援する。

2) 通常の専攻実技の授業・レッスンや試験におけるピアノ伴奏等を務めた場合に、その伴奏に対し、単位を認定する。

3) 専攻以外の楽器について、個々人の学習計画や卒業後の進路から必要と思われる演奏実技の個人指導を受ける機会として「キャリアアップコース」を置く。

②認定の対象

1) 音楽科が認める機関により開催されるコンクールにおいて受賞したもの（伴奏含む）。

2) チェックシートに、毎回担当教員のサインを受け、認定対象とする。

3) 副科実技に相当する実技レッスン。半期に15回のレッスンを受けることが出来る（1回20分）。学期末に担当教員より評価を受け、評価A・Bの場合は5ポイントが付加、評価Cの場合はポイント無しとする。尚、受講するには別途申請が必要となる。詳細は別途説明する。

③単位化

1) 1年間に取得できる単位は1単位とする（同一年に複数のコンクールで受賞した場合も同様）。

2) 1年間、同一教員の授業・レッスン、30回（年間）のうち20回以上出席した場合、1単位とする。

3) 履修登録期間に音楽科副手室にて申請し、合計10ポイントで1単位とする。

1)、2)、3) 共に、再度履修は何度でも認める。取得単位は2単位までを「自由選択科目」として卒業要件単位に含めることができる。

④認定

- 1) 学生が所定の様式により科へ申請し、科会議の議を経て認定される。申請は、各セメスター終了前に一定期間を設けて音楽科副手室で受け付ける。
- 2) 学生が所定の様式により科へ申請し、科会議の議を経て認定される。申請は、後期授業終了前に一定期間を設けて音楽科副手室で受け付ける。
- 3) 学生が所定の様式により科へ申請し、科会議の議を経て認定される。申請は、各セメスター終了前に一定期間を設けて音楽科副手室で受け付ける。

(カ)「音楽科のオーディション方法」について

1)「演奏家養成特別実技」オーディション

- ①「演奏家養成特別実技」履修者若干名を選抜するために、1年生は4月上旬、2・3・4年生は前年度の末にオーディションを行う。
- ②オーディションでは器楽コース・声楽コースのすべての受験者を審査委員会が審査する。
- ③審査委員会は原則として専任・特任・特命・非常勤講師で構成される。
- ④オーディションはすべて公開で行う。

2)「音楽科コンサート」と「ソロ・アンサンブル発表会」の出演者にかかわるオーディション

- ①「音楽科コンサート」の演奏曲のソリストを決める際、必要に応じてオーディションを行う。オーディションの有無、曲目、条件などの詳細は、掲示板において告知する。ソロ・アンサンブル発表会の出演者を決める際も、オーディションを行う。
- ②オーディションでは、各催事ごとの審査委員会が、すべての受験者を審査する。
- ③審査委員会は原則として専任・特任・特命・非常勤講師で構成される。
- ④オーディションはすべて公開で行う。

3 取得できる免許と資格

「免許・資格取得に関わる単位」を修得することにより、次の免許ないし資格を取得することができる。取得方法については、「資格・免許」(P112～)を参照すること。

教育職員免許状：中学校教諭一種免許状（音楽）

高等学校教諭一種免許状（音楽）

資 格：司書教諭

4 教育課程表の記号について

・「卒業要件」…卒業に関わる授業科目
・「免許・資格」…免許・資格取得に関わる授業科目

必修	◎
選択必修 (複数の科目から指定の単位数を必ず選択する)	○
選択 (卒業要件単位)	△
自由 (卒業要件単位には含まれない)	◇
教職 (中一種免・高一種免を両方取得希望者) 必修	※

部門	卒業要件	授業科目	単位	開設年次および単位				再度履修	備考	免許・資格			
				1年次	2年次	3年次	4年次			音楽 (中学校)	音楽 (高校)	司書 教諭	
専 共 用 実 践 科 目	△	日本音楽史概論	2		2					◎	◎		
	△	鍵盤音楽史	2			2			鍵盤楽器専攻のみ必修				
	△	声楽	2			2			声楽コースのみ必修				
	△	民族音楽学A	2		2					◎	◎		
	△	民族音楽学B	2		2								
	△	芸術と社会A	2			2							
	△	芸術と社会B	2			2							
	△	作曲・編曲法I	2			2				○	○		
	△	作曲・編曲法II	2			2				○	○		
	◎	指揮法I	1				1			◎	◎		
	◎	指揮法II	1				1			◎	◎		
	△	副科管弦打楽器器I	1	1					可				
	△	副科管弦打楽器器II	1	1					可				
	△	副科管弦打楽器器III	1		1				可	クラス			
	△	副科オルガンI	1			1				ピアノ専攻のみ必修・クラス			
	△	副科オルガンII	1			1							
	△	副科オルガンIII	1				1		可	クラス			
	△	副科ハーブシコードI	1				1						
	△	副科ハーブシコードII	1				1			オルガン専攻のみ必修・クラス			
	△	副科ハーブシコードIII	1				1		可	クラス			
教 育 目 的	△	オーケストラA	1				1		可		○	○	
	△	オーケストラB	1			1			可		○	○	
	△	オーケストラC	1			1			可		○	○	
	△	オーケストラD	1			1			可		○	○	
	△	音楽と声楽学A	2	2									
	△	音楽と声楽学B	2			2			可	声楽コースのみ必修			
	△	キャリアアップ演習1	1		1				可	認定科目			
	△	教育楽器演習2	2			2					◎	◎	
	△	和楽器演習2	2			2					◎	◎	
	△	キーボードハーモニー	2			2							
育 目 的	△	指導法研究A	1				1						
	△	指導法研究B	1				1			◎	◎		
	△	指導法研究C	1				1			△	△		
	△	指導法研究D	1				1						
	◎	キャリアデザイン2	2		2								
	△	音楽と地域文化A	2			2							
	△	音楽と地域文化B	2			2							
	△	アウトラッチ演習1	1		1				可	認定科目			
	育 目 的	△	専攻実技I A	2	2								
		△	専攻実技I B	2	2								
△		専攻実技II A	2		2								
△		専攻実技II B	2		2								
△		専攻実技III A	2			2							
△		専攻実技III B	2			2							
△		専攻実技IV A	2				2						
△		専攻実技IV B	4				4						
△		演奏家養成特別実技A	4	4									
△		演奏家養成特別実技B	4	4									
△		演奏家養成特別実技C	4		4								
△		演奏家養成特別実技D	4		4								
△		演奏家養成特別実技E	4			4							
△		演奏家養成特別実技F	4			4							
△		演奏家養成特別実技G	4				4						
△		演奏家養成特別実技H	4				4						
△		室内楽A	1	1									
△		室内楽B	1	1									
育 目 的		△	室内楽C	1		1							
		△	室内楽D	1		1							
	△	室内楽E	1			1							
	△	室内楽F	1			1							
	△	室内楽G	1				1						
	△	室内楽H	1				1						
	△	演奏法研究(器楽)	2				2						
	△	オーケストラI A	1	1							○	○	
	△	オーケストラI B	1	1							○	○	
	△	オーケストラII A	1		1						○	○	
△	オーケストラII B	1		1						○	○		
△	オーケストラIII A	1			1								
△	オーケストラIII B	1			1								
△	オーケストラIV A	1				1							
△	オーケストラIV B	1				1							

音楽科

部門	卒業要件	授業科目	単位	開設年次および単位				再度履修	備考	免許・資格		
				1年次	2年次	3年次	4年次			音楽(中学校)	音楽(高校)	司書教諭
専攻科 音楽科 声楽コース	△	声楽実技 I A	2	2				声楽コースのみ必修				
	△	声楽実技 I B	2	2								
	△	声楽実技 II A	2		2							
	△	声楽実技 II B	2		2							
	△	声楽実技 III A	2			2						
	△	声楽実技 III B	2			2						
	△	声楽実技 IV A	2				2					
	△	声楽実技 IV B	4				4					
	△	演奏家養成特別実技 A	4	4								
	△	演奏家養成特別実技 B	4	4								
	△	演奏家養成特別実技 C	4		4							
	△	演奏家養成特別実技 D	4		4							
	△	演奏家養成特別実技 E	4			4						
	△	演奏家養成特別実技 F	4			4						
	△	演奏家養成特別実技 G	4				4					
	△	演奏家養成特別実技 H	4				4					
	△	オペラ演習 I	1			1		可	声楽コースのみ必修 クラス			
	△	オペラ演習 II	1			1		可				
	△	アンサンブル演習 I	1			1		可	クラス			
	△	アンサンブル演習 II	1			1		可				
△	演奏法研究(声楽)	2			2							
△	専攻合唱 I A	1	1					声楽コースのみ必修	○	○		
△	専攻合唱 I B	1	1						○	○		
△	専攻合唱 II A	1		1					○	○		
△	専攻合唱 II B	1		1					○	○		
△	専攻合唱 III A	1			1							
△	専攻合唱 III B	1			1							
△	専攻合唱 IV A	1				1						
△	専攻合唱 IV B	1				1						
△	作曲実技 I A	2	2					作曲コースのみ必修				
△	作曲実技 I B	2	2									
△	作曲実技 II A	2		2								
△	作曲実技 II B	2		2								
△	作曲実技 III A	2			2							
△	作曲実技 III B	2			2							
△	作曲実技 IV A	2				2						
△	作曲実技 IV B	4				4						
△	作曲理論 I A	2	2						○	○		
△	作曲理論 I B	2	2						○	○		
△	作曲理論 II A	2		2								
△	作曲理論 II B	2		2								
△	オーケストレーション I	2			2							
△	オーケストレーション II	2			2							
教職に関する科目	◇	教育原論	2	2					◎	◎		
	◇	教育制度論	2	2					◎	◎		
	◇	教職概論	2	2					◎	◎		
	◇	教育心理学	2		2				◎	◎		
	◇	教育方法論(情報通信技術を活用した教育の理 及方法を含む)	2		2				◎	◎		
	◇	特別支援教育論	1		1				◎	◎		
	◇	教育課程論	1		1				◎	◎		
	◇	道徳教育の理論と方法	2		2				◎	△		
	◇	特別な活動の理論と方法	1		1				◎	◎		
	◇	総合的な学習の時間の指導法	1		1				◎	◎		
	◇	生徒指導 A(進路指導を含む)	2		2				◎	◎		
	◇	教育相談	2			2			◎	◎		
	◇	音楽科教育法 I	2		2				◎	◎		
	◇	音楽科教育法 II	2		2				◎	◎		
◇	音楽科教育法 III	2			2			◎	△			
◇	音楽科教育法 IV	2			2			◎	△			
◇	教職実践演習(中・高)	2				2		◎	◎			
◇	教育実習 A(事前事後指導を含む)	5				5		◎	※			
◇	教育実習 B(事前事後指導を含む)	3				3			◎			
司書教諭に関する科目	◇	学校経営と学校図書館	2			2					◎	
	◇	学校図書館メディアの構成	2			2					◎	
	◇	学習指導と学校図書館	2			2					◎	
	◇	読書と豊かな人間性	2			2					◎	
◇	情報メディアの活用	2			2					◎		
計	一般教育科目	60										
	専門教育科目	249										
	教職に関する科目	38										
	司書教諭に関する科目	10										
合計		357										

※各コース専門科目はそれぞれのコース・専攻生のみ履修可能とする

音楽科